

令和5年度 自己点検・自己評価結果

1. 自己点検・自己評価の目的

看護師養成所の責任として教育水準の維持・向上を図るために、教育活動及び学院運営のあり方全体を自己評価するものです。

2. 結果

教育活動の9カテゴリ（48項目）に対する教職員の評価を、「そう思う：4点」「ややそう思う：3点」「あまりそう思わない：2点」「そう思わない：1点」と点数化して、集計した結果のカテゴリ別平均点を表1・図1に示しました。

全カテゴリ48項目別の平均点は表2に示しました。また、カテゴリ別評価割合は図2に示しました。

カテゴリ別平均点で最も高いのは「入学」・「地域社会」3.9、最も低いのは「研究的活動」3.3でした。昨年度と比較し、平均点が上昇したのは、「教育理念・教育目的」「地域社会」の2つのカテゴリで、平均点が低下したのは、「教育課程経営」「教授・学習・評価過程」「経営・管理過程」「入学」「卒業」の5つのカテゴリで、その他2つのカテゴリ「教育目標」「研究的活動」は昨年度と同様の平均点でした。

表1 カテゴリ別平均点

カテゴリ	評価項目の概要	カテゴリ別平均点	昨年度
I 教育理念・教育目的 (4項目)	教育理念・教育目的は学院の教育上の特徴を示し、学修指針の明示。教育内容、教育方法、教育環境を述べ、卒業時の学生像を明示	3.9	3.8
II 教育目標(4項目)	教育理念・教育目的と教育目標の一貫性、到達目標を示し、看護実践能力の育成表現、卒業後の継続教育の考えを示した目標の設定	3.8	3.8
III 教育課程経営 (9項目)	教育目的・目標に沿った教育課程編成、単位履修方法・単位認定基準、教育課程の評価体系の整備。教員の担当科目と準備時間、実習施設確保、安全教育の体制	3.6	3.7
IV 教授・学習・評価過程 (4項目)	看護学教育として適切な授業内容か、授業内容に応じた授業形態、目標達成評価とフィードバック、学習の動機づけと支援体制	3.5	3.6
V 経営・管理過程 (11項目)	設置・管理運営に関し教職員の理解、意思決定システム・役割の明確化、組織決定事項の周知、施設設備、学習継続支援体制、教育活動への関係者の協力支援、中長期・年間計画立案、自己点検評価の取組み	3.5	3.7
VI 入学(4項目)	入学者選抜方法の明確化、選抜方法妥当性検討、入学者の確保活動	3.8	3.9
VII 卒業(4項目)	卒業時の目標到達および就業・進学状況分析、就業先での問題分析、卒業生の活動状況把握と分析	3.7	3.8
VIII 地域社会(3項目)	地域社会貢献、教育活動へのニーズ把握、地域への情報発信	3.9	3.7
IX 研究的活動(5項目)	自己研鑽・相互研鑽システム整備、研究活動への支援体制、研修成果の教育活動への反映	3.3	3.3
	平均点	3.7	3.7

表2 カテゴリー項目別平均点

カテゴリー	項目	R5年度	R4年度
I. 教育理念・教育目的	1. 看護学院の教育上の特徴を示し、法との整合性がある。	4.0	3.8
	2. 学生の学修の指針となるよう明示し、指針となっている。	3.9	3.8
	3. 看護師の質確保のための教育内容、教育方法、教育環境を述べている。	3.9	3.8
	4. 卒業時の資質を明示し社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3.9	3.8
II. 教育目標	5. 教育理念・教育目的と一貫性があり、教育内容を網羅している。	3.9	3.9
	6. 教育活動の到達目標を示し、具体的で実現可能なものとなっている。	3.8	3.9
	7. 育成すべき看護実践能力と学習者としての目標を設定している。	3.9	3.9
	8. 卒業後の継続教育の考え方を示した教育目標である。	3.8	3.8
III. 教育課程経営	9. 明確な根拠をもって教育課程を編成している。	3.7	3.8
	10. 明確な考え方と根拠で科目・単元を構成し、教育目的・目標に対して妥当である。	3.7	3.8
	11. 科目配列、履修方法、単位履修の方法と制約をわかりやすく示している。	3.7	3.7
	12. 単位認定の基準・方法は妥当である。	3.9	3.8
	13. 教育課程を評価する体系を整えている。	3.6	3.8
	14. 教員の専門性を配慮した担当科目・時間数を配分し授業準備時間をとれる体制を整備。	2.8	2.8
	15. 臨地実習施設を確保し、指導体制がとれている。	3.6	3.6
	16. 対象者の権利尊重の考え方に基づき学生指導を計画的に行っている。	3.6	3.8
IV. 教授・学習・評価過程	17. 安全教育、安全対策を計画的に行い、発生事故の把握と分析をしている。	3.8	3.9
	18. 授業内容は科目目標と看護学の教育内容として妥当、科目間の整合性、発展性が明確。	3.7	3.6
	19. 授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じ選択し効果的指導体制がとれている。	3.4	3.4
	20. 目標達成の評価とフィードバック	3.4	3.6
	21. 学習への動機づけと支援ができています。	3.4	3.8
V. 経営・管理過程	22. 設置・管理運営に関する管理者の考え方が明示され、教職員は理解している。	3.5	3.6
	23. 組織体制は教育目的達成のために意思決定システムや権限、役割機能が明確である。	3.4	3.7
	24. 組織構成員の意思の反映や決定事項の周知がされている。	3.1	3.4
	25. 教職員任用の考え方と資質向上対策の考え方は、教育理念・教育目的と整合性がある。	3.4	3.8
	26. 教職員は、どのような財政基盤で成り立っているかを理解している。	3.5	3.6
	27. 必要な施設設備及び備品を計画的かつ状況に合わせて整備している。	3.5	3.6
	28. 学習継続のための支援体制が整っている。	3.5	3.7
	29. 教育・学習活動に関する関係者の協力支援を得ている。	3.6	3.8
	30. 看護師養成機関として、社会的説明責任を果たしている。	3.8	3.8
	31. 中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3.8	3.8
	32. 自己点検・自己評価組織があり、課題や改善への取り組みを継続している。	3.9	3.8
VI. 入学	33. 入学者選抜委員会を組織し選抜の考え方を明確にしている。	3.8	3.8
	34. 入学後の成績、学習状況を分析し、選抜方法の妥当性を検討している。	3.8	3.8
	35. 入学試験に関して公平性、公明性を確保し、一貫した対応をしている。	3.9	3.9
	36. 積極的な募集活動を行い、入学者の確保に努めている。	3.9	3.9
VII. 卒業	37. 卒業時の教育目標の到達状況を捉え、分析している。	3.8	3.8
	38. 卒業生の就業・進学状況を分析している。	3.9	3.9
	39. 卒業生の就業先評価を把握、あるいは調査し、問題を明確にしている。	3.6	3.6
	40. 卒業生の活動状況を把握、あるいは調査し、分析している。	3.7	3.8
VIII. 地域社会	41. 教育活動をとおして、地域社会への貢献を組織的に行っている。	3.9	3.7
	42. 教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	3.8	3.8
	43. 教育活動について、地域に情報発信している。	3.9	3.7
IX. 研究的活動	44. 教員が自ら成長できる自己研鑽のシステムを整えている。	3.4	3.3
	45. 教員が相互研鑽できるシステムを整えている。	3.3	3.5
	46. 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)し、助言・検討する体制を整備。	3.0	2.8
	47. 教員は研修目標を明確に持ち、成果を教育活動に反映させている。	3.5	3.4
	48. 研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある。	3.3	3.4
	全体	3.7	3.7

図1 カテゴリー別評価

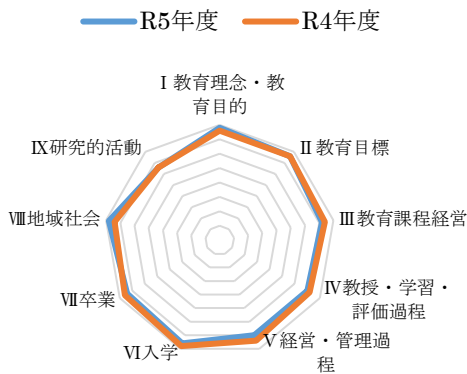
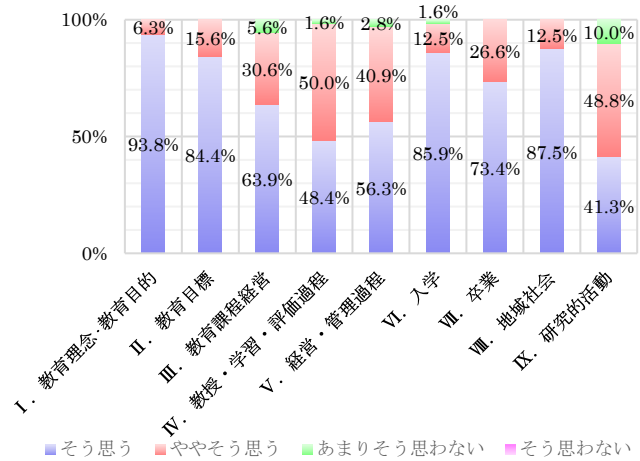


図2 カテゴリー別評価割合



1) 各カテゴリー別評価

I 教育理念・教育目的 (3.9)

当学院は、「人間の尊厳」を核として、地域で暮らす人々が持てる力を発揮し、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることを支援できる看護実践者として、十勝地域の保健・医療・福祉の向上発展に貢献できる専門職業人を育成することを教育理念としています。看護師の使命と役割を果たす上で日頃から責任ある行動を徹底して求め、豊かな人間性と倫理観を身につけた専門職業人に育つことを願い、主体的な学習及び自律した生活に向け支援しています。

評価項目すべてにおいて高得点であり、教職員が教育理念・教育目的のもと教育運営に努めているものと考えます。

II 教育目標 (3.8)

昨年とほぼ同様の評価であり、教育目標に向かって教育内容を精選するとともに教育活動の到達目標を常に意識しながら教育を運営してきた結果と考えます。今後も教授・学習活動について常に評価・修正しながら明確な到達目標を設定し、学生と共有しながら教育目標の達成を目指します。

III 教育課程経営 (3.6)

評価項目別で若干平均点が上下しています。最も平均点が低かった項目は、「教員の専門性を配慮した担当科目、時間配分と授業準備時間をとれる体制整備」であり、昨年度と同様に全48項目のうち最も平均点が低い結果でした。教員体制上の変化により専門分野の担当の変更等、例年より業務過重となったことも影響していると考えますが、実習指導等に多くの時間を要することで授業準備時間をとることが難しい状況が続いています。

当学院は、十勝管内の各自治体が設置主体であり、多くの関係機関の協力のもと、多様な施設での実習と多くの講師による専門性の高い教育を維持しています。

次年度は全学年が新しいカリキュラムとなるため、地域で暮らす人々の理解を深め、学生の学習体験を広げ積み上げられるよう関係機関との連携をより一層図ることで安定した教育環境を維持し、学生が安全に安心して学習に取り組み、目標に向かい力を発揮できるよう努めていきます。

IV 教授・学習・評価過程 (3.5)

昨年度同様、9カテゴリーの中で2番目に低い結果であり、「学習への動機づけと支援」については昨年度と比較し0.4点と全48項目中最も得点が低下しました。入学時から各年次別に個別的な学習支援を継続していますが、年々学習への取組と学習推進力に差がみられています。看護に必要な知識・技術を習得・活用しながら多様な健康状態にある対象者を理解し、健康レベルに応じた看護を思考する力と状況に応じて適切に行動できる能力をどう積み上げていくか、毎年試行錯誤しています。特に臨地実習は看護実践能力を育成するうえで要となる科目であり、教育理念・教育目標と卒業生像との一貫性をもって教授・学習・評価を繰り返し、学生の主体的な学びを支援していきたいと考えます。

V 経営・管理過程 (3.5)

十勝管内市町村の財政支援と経営管理体制のもとで安定した学院運営が維持されています。学習環境の整備が飛躍的に進み、学内の看護技術演習は、大型スクリーンを活用した看護技術のデモをはじめ、グループで主体的な学習を推進できるよう iPad を用いた看護技術演習の実施等、新カリキュラムに対応し購入した教材の効果的な活用を進めています。しかし、今年度は教員体制の変化に伴い教育運営上の厳しさが全体的な評価点数の下降に影響したものと考えます。

学生たちが安定した教育環境の中で学修を継続するための組織体制をつくり、新カリキュラムの全年次開始に取り組む必要があります。

VI 入学 (3.8)

全体的に高得点であり昨年同様の結果でした。入学者選抜委員会を組織し、入学者選抜方法と入学後の成績の推移を分析し、広く看護志願者を受け入れられるよう選抜方法の妥当性を検討しています。また、十勝管内市町村立の公的養成機関として入学者選抜に関する公平性、公明性は確保されているといえます。積極的な受験生確保対策として学院見学会と高校訪問等での PR を継続し、学院内受験生確保対策推進委員会は、学生による学院 PR 部を立ち上げ、看護師の仕事や看護の学習について受験生等に PR するとともに SNS を活用した積極的な広報活動を展開しています。18 歳人口の減少と大学志願者の増加のなか、3 年課程の看護師養成所として十勝地域で求められる役割と使命が果たせるよう看護師志願者の増加を目指し、努力していきます。

VII 卒業 (3.7)

評価項目 4 項目のうち「卒業生の就業先での評価の把握や問題点の明確化」が最も低く、昨年度と同様の結果でした。卒業生とのつながりは深く、卒業後の就業状況等、個別に様々な情報を得る機会はあるものの、就職先で卒業生が抱える課題や困難さ等の実態や活動状況の全体把握は継続課題です。卒業生の就業状況については、就業施設からも把握し、教育活動の評価と就業施設との連携のあり方について検討が必要だと考えます。

VIII 地域社会 (3.9)

9 カテゴリーの中で最も高い平均点でした。十勝地域の看護師ニーズと生活者の暮らしへの理解を深め、看護師養成のあり方を見つめながら保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成に学校組織として責任をもち、その使命を果たせるよう教職員の意識の向上と十勝地域のニーズをとらえる視点をもち、教育活動の充実・発展に努める必要があります。

IX 研究的活動 (3.3)

例年同様、最も平均点の低い結果でした。研究的活動に取り組むことのできる組織的な体制づくりは継続課題です。現状においては看護技術指導や看護過程演習、臨地実習指導などの教材化に関して議論しながら改善点を見出し、教授活動に反映させることを継続していきます。

<今後の課題>

- 教員の担当科目・時間数の配分と授業準備時間の確保
- 研究活動の保障・体制づくり
- 教職員の意思の反映と決定事項の周知